



## 「妙高市民の心」作文 優秀作品集

最優秀賞

☆小学生4年生～6年生の部

### 「ラジオ体操で変わった事」

斐太北小学校 5年 すぎや りょうか 杉谷 涼華

みなさんの地域では、ラジオ体操を行っていますか。私の地域では、五月頃から週末に地域の人が集ってラジオ体操を行っていて、私は家族みんなで参加している。また、夏休みは、学校の取組としても毎日ラジオ体操をすることを心がけている。私は「なぜ、毎日早く起きてラジオ体操をしなければならないのだろう。」と思っていた。でも、ラジオ体操をしているうちに変わったことが二つあった。

一つ目は、地域の人とあいさつや話ができるようになったことだ。ふだん話すことがない地域の人と少しでも話すことで朝から元気が出てきた。私の地域はお年よりが多く、コロナ期間で行事も中止になっていて前より地域の人と会うことが少なくなった。しかし、ラジオ体操をすることによって若い人もお年よりの人も元気に外に出て来るようになり、朝から地域が明るくなった。地域の人が声をかけてくれたり、「えらいね。」とほめてくれて嬉しかった。ラジオ体操を通して、地域の人とのつながりがより強くなった。

二つ目は、早く起きる習慣がついたことだ。私はふだん親に起こされることが多い。初めの二、三日はラジオ体操が始まるギリギリまでねてしまい、少し遅れてしまう日があった。私は改ぜんするために、夜はいつもより早くねることを心がけた。そして早く起きられるようになった。早く起きると体がシャキッとして次の活動に早く取り組めるようになった。早く起きることで時間ができ、一日に余裕を持てるようになった。

最初は早く起きることがいやだったけれど地域の人と話することが楽しみになって、また行きたいと思えるし、続けたことで早く起きる習慣がついた。ラジオ体操はとてもすばらしい行事だと思う。これからも地域の人とのつながりを大切にし、ラジオ体操に参加し続けたい。





☆学生4年生～6年生の部

## 「優しい心」

妙高高原北小学校 6年 いけだ しょうご 池田 咲冴

ぼくは、小学校に入学してすぐの登校中に排水口のふたにつまずいて転んだことがあります。

その時、顔をすりむき血がたくさん出て、なみだがとまりませんでした。同じ登校はんの六年生のはん長さんと近所の人に助けてもらいました。近所の人に消毒やばんそうこうをしてもらいました。

そしてはん長さんにつきそってもらってがんばって学校に行きました。すぐくはずかしくて痛かったけど、みんなに優しくしてもらってすごくうれしかったことを覚えています。

それから、ぼくは、困っている人がいたら助けてあげたいと思うようになりました。

お母さんがご飯を作っている時は、なにか手伝うことはないか聞きに行ったり、小さい子が泣いていたら

「どうしたの、だいじょうぶ？」

と声をかけたり笑わせてあげたり、お年寄りが困っていたら助けたりするようになりました。

それだけでなく、学校に行くときも大きな声であいさつをするようになりました。ぼくはあいさつをすることで、みんなが明るい気持ちになれば良いと思ってあいさつをしています。

でも、だれかが困っていることに気づくことが少なく、もっとたくさん気づいてあげられるようにしたいです。

いまは、コロナ禍で大きな声であいさつをしたり、声をかけたりすることがあまりできないけれど、コロナ禍が落ち着いてきたら、声かけやあいさつをしたり困っている人を見つけたら率先して助けたりしてあげたいと思います。

自分がしてもらった時の優しさを忘れないように、これからも「優しい心」を続けていきたいと思っています。





☆学生4年生～6年生の部

## 「火祭りで仮山伏」

妙高小学校 6年 やました しょうた 山下 翔汰

ぼくは、毎年、関山神社で行われる火祭りに参加をしています。けれど、二年連続で中止になってしまい、昨年も、できませんでした。火祭りができなくて、とても残念でした。今年、火祭りができることが分かった時は、とてもうれしかったです。

昨年から仮山伏愛好会に入っていたぼくは、毎週木曜日に、必死に練習をしました。家に帰ってからも、少し練習した日もありました。夜には、ときどき大人の仮山伏をやっている声も聞こえました。「自分もがんばらないと。」と思いました。

そして、本番の七月十六日。仮山伏を見ようと、たくさんのお客さんが来ました。ぼくは、とても緊張しました。いままでの練習の成果を発揮しようと思いました。その結果、とても上手に出来ました。そして、お客さんの拍手が聞こえました。ぼくは、とてもうれしくなりました。いろいろな人から、「上手だったよ。」「がんばったね。」「すごかったよ。」など、ほめられました。「がんばってよかったな。」と思いました。

今でも、関山神社に行くと思い出します。

次は、発表会などで披露をします。その時も、一生けんめいがんばりたいです。練習回数は少なくなるけれど、前のことを思い出しながら練習をしたいです。

ぼくは、中学校に行っても、仮山伏を続けたいと思っています。地域の行事や祭りで披露したり参加したりすることは、いいことだと思っています。

ぼくは、これからも、地域の行事や祭りに参加したいです。

